

研究・調査報告書

報告書番号	担当
301	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳) Ready to drinks are associated with heavier drinking patterns among young females. 若い女性では Ready to drinks の飲酒は(飲まない人)より多量飲酒するパターンと関連している。	
執筆者 Huckle T, Sweetsur P, Moyes S, Casswell S.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Drug Alcohol Rev. 2008 Jul;27(4):398-403.	
キーワード Ready to drinks、若者、多量飲酒、機会飲酒	
要 旨 目的： Ready to drinks(RTDs:缶入り低アルコール飲料)の利用パターンを報告し、RTD 消費者がより多量飲酒しやすいかどうかを見ることを目的とした。RTDs は 1995 年に導入されている。 方法： 応答のあった 14-65 歳の 7201 人を対象に 2004 年にニュージーランドで行われた一般住民データを使用した。 結果： 回答した者で 14-17 歳、18-24 歳、女性が一番たくさん RTD s を飲用していた。ビール、ワイン、スピリッツ(蒸留酒)に比べ、RTD 使用者は(1) 14-17 歳、18-24 歳、24 歳以上の解答者であることが多く、(2) 14-17 歳、18-24 歳では飲酒量がより多かった。飲み物消費量総量をモデルに入れると、RTDs の量は女性のどの年代でも飲酒機会がより多いことを示した。男性ではビールにより予測能があった。さらに多量飲酒の測定においても同様の結果が見られた。14-17 歳の女性では RTDs 消費量は 1 年あたりで飲酒頻度がより多いことを示したが、他の年代の女性と男性では消費されたワインとビールの総量がより多い飲酒頻度と関連した。 結論： RTDs は 14-17 歳の若者や女性の間で最も人気がある。女性と 14-17 歳では RTDs は他のどんな飲み物よりも機械飲酒回数とより多量飲酒の予見能があった。他の年代や性別群では他の飲み物がより飲酒頻度の多さと消費頻度を予見していた。	